

山陰道（須^す子^こ～萩^{はぎ}）

優先区間の絞り込みに向けた検討

第1回 説明資料

平成25年11月11日

国土交通省 中国地方整備局

1. 山陰道のネットワーク状況	・ ・ ・	2
2. 地域の状況と課題	・ ・ ・	4
3. 道路・交通の状況と課題	・ ・ ・	9
4. 地域及び道路の現状(まとめ)	・ ・ ・	16
5. 今後の進め方(予定)	・ ・ ・	18

1. 山陰道のネットワーク状況

1. 中国地方の高規格幹線道路網

○当該区間は、日本海国土軸の一部を担う山陰道の一部。

○島根県益田市から山口県萩市に位置し、北側の日本海と南側の山地に挟まれた自然豊かな地域である。

【広域図】

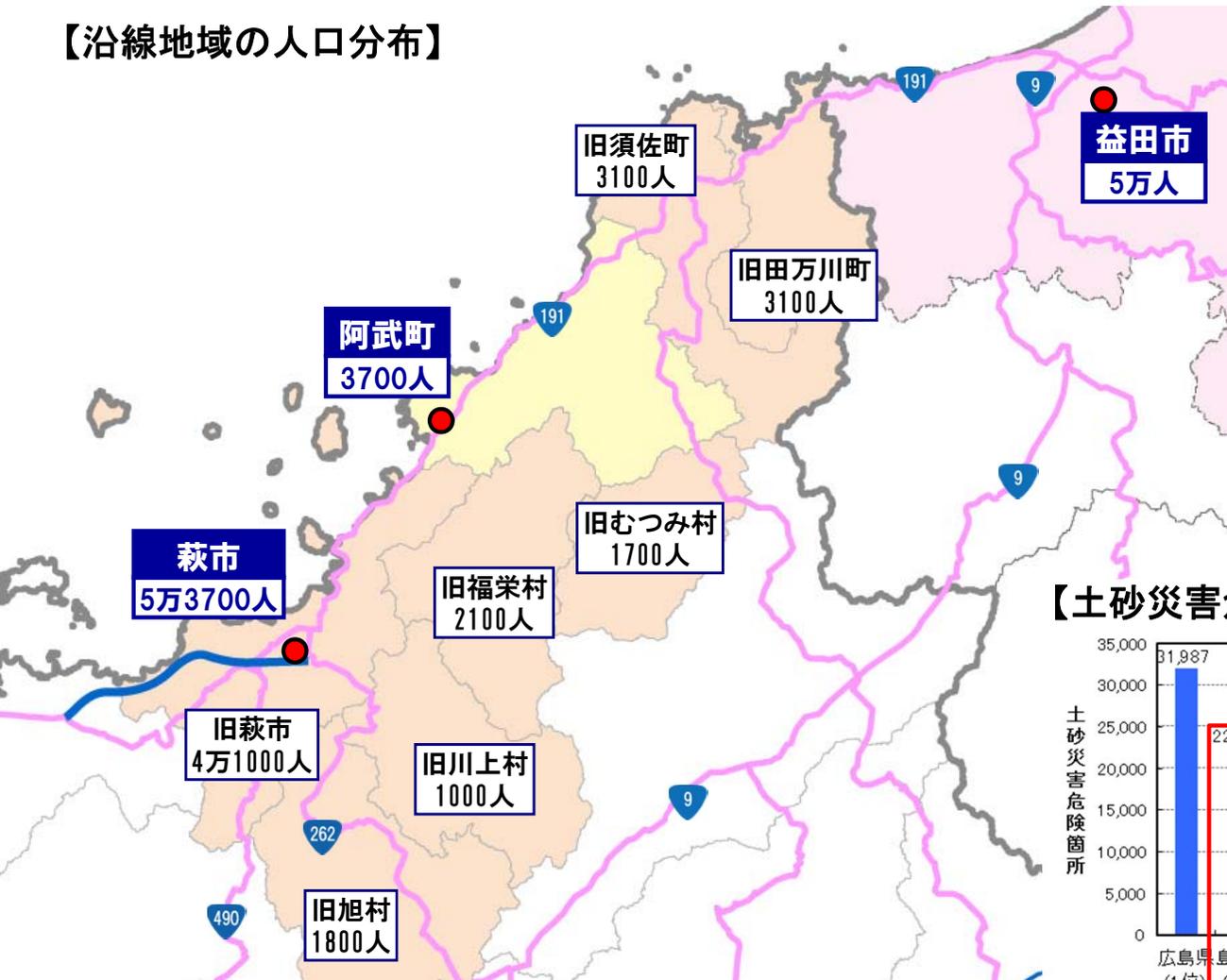


2. 地域の状況と課題

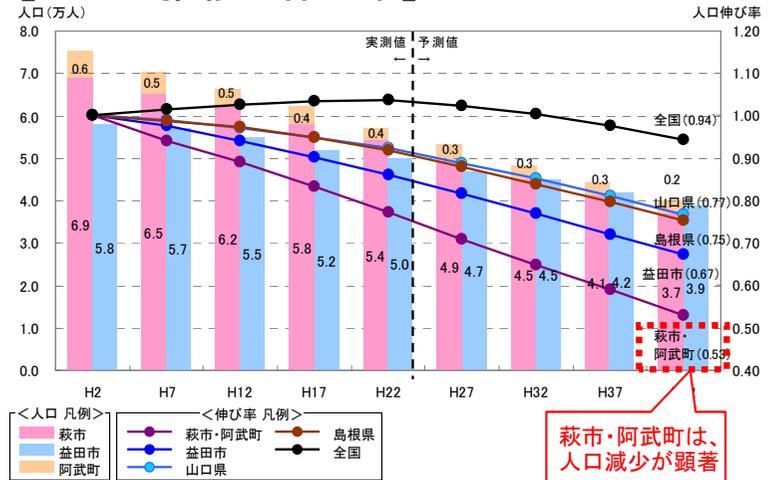
2-1 概況

- 益田市から萩市に至る2市1町からなる沿線地域の人口は約11万人。
- 島根県・山口県は全国に比べ人口減少が進展しており、特に沿線地域(益田市～萩市)では人口減少が著しい。
- 土砂災害が発生しやすい地質的リスクを抱えている(土砂災害危険箇所数は全国で第2位と第3位。また土砂災害発生件数は全国で第4位と第5位)。

【沿線地域の人口分布】

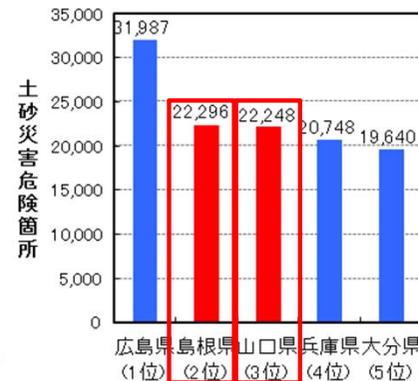


【人口の推移と伸び率】(平成2年を1.0とした場合)

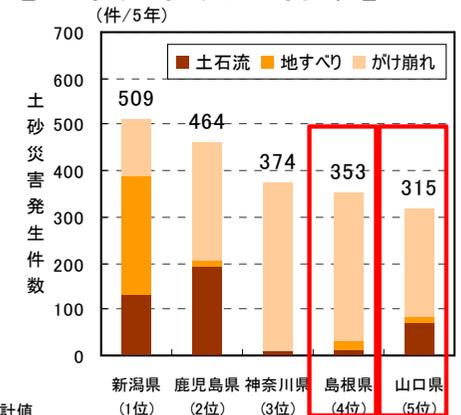


資料:【実績値】H22国勢調査(総務省)、【予測値】日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計) 国立社会保障・人口問題研究所

【土砂災害危険箇所数】



【土砂災害発生件数】



※土砂災害危険箇所: 土石流危険渓流等、急傾斜地崩壊危険箇所等、地すべり危険箇所の合計値
 ※土石流危険渓流等、急傾斜地崩壊危険箇所等はH14公表値
 ※地すべり危険箇所はH10公表値
 資料:[都道府県別土砂災害危険箇所] 国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部

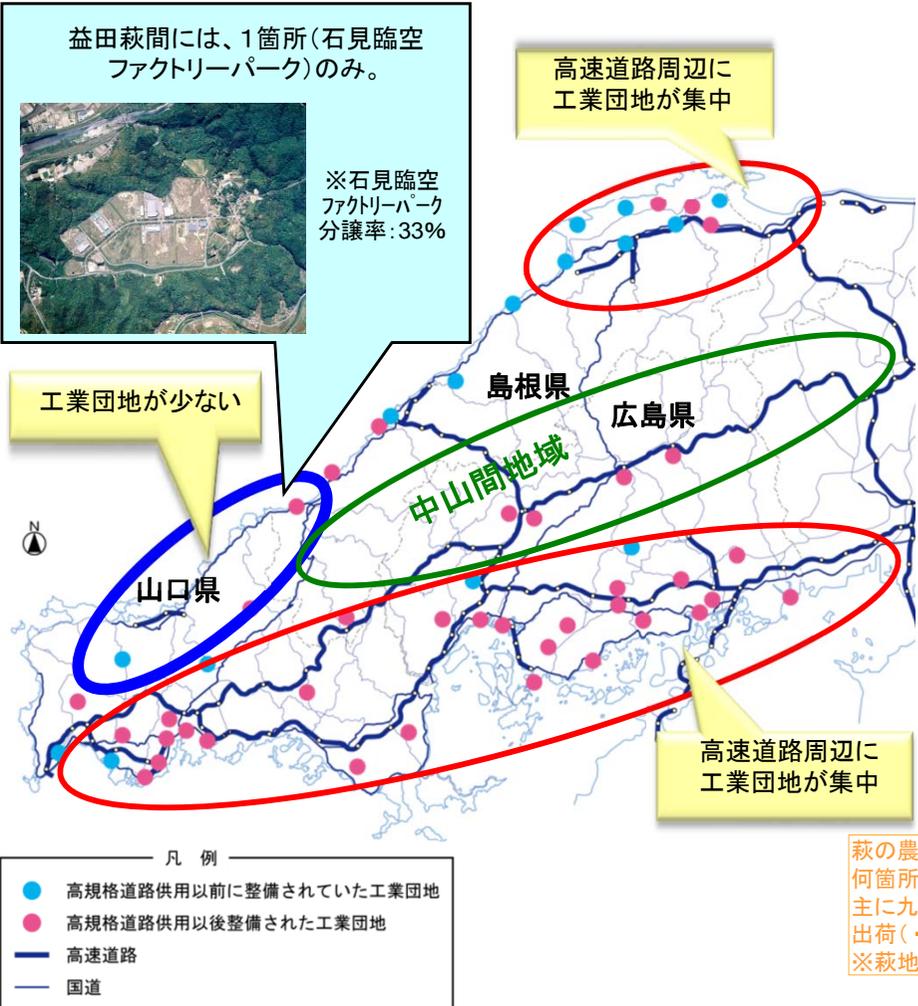
※H20～H24合計値
 資料:[近年の都道府県別土砂災害発生状況] 国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部

資料: (人口) H22国勢調査

2-2 地域の産業構造

- 益田市・萩市地域は高速道路のアクセス性が悪く、工業団地の立地が1箇所のみ。
- 中山間地域(三次市、庄原市)においても高速道路整備後に工業団地が立地している。
- 自然豊かな益田市・萩市地域は豊富な農水産物があり、国道191号は出荷経路として重要な役割を果たしている。

【山口県、島根県、広島県の工業団地整備状況】



【益田市～萩市周辺地域の農水産物の出荷の流れ】



資料:各県HP
 ※本頁における工業団地とは、各県HPに掲載されているものを指す

資料:H25萩市水産課、H18萩地域農林事務所ヒアリング、JA西いわみ、JFLまね

2-3 観光

- 三大都市圏及び九州地方発観光ツアーは、出雲～鳥取周遊や広島～山口周遊のツアーが組まれているが、大田～萩間は、東西の移動時間が長く、観光ツアーが組み難い立地状況となっている。
- 高速道路がネットワーク化されていない地域の観光地は、観光入込客数が少ない傾向にある。
- 主要な交通拠点としては萩・石見空港があるが、観光地が集中する萩市中心部への移動に時間を要す。

【中国地方を周遊する主な観光ツアーの状況】

移動時間が長く、ツアーを組みにくいエリア（東西の移動に約3時間を要す）

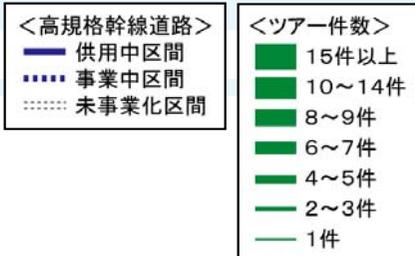
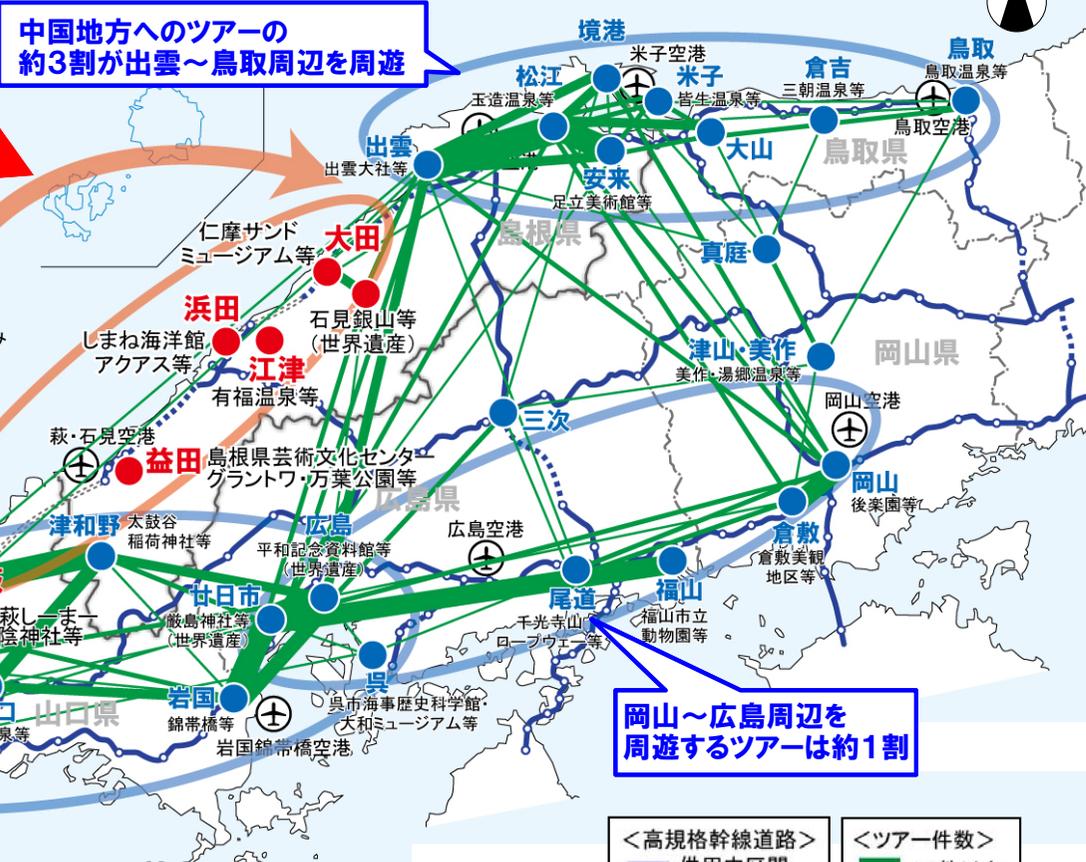
東西の移動にあまりにも時間がかかったため、商品開発を断念した。（JTB 大阪中央支店）

※) 出雲大社～石見银山、大田～萩・津和野等を周遊するツアーがわずかに設定されているのみ

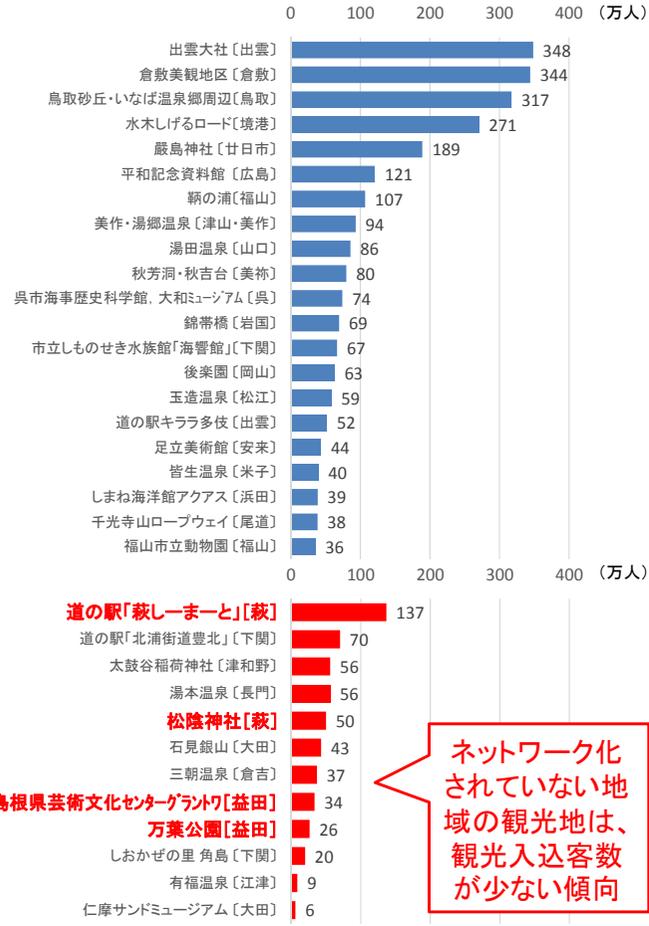
中国地方へのツアーの約5割が、広島～萩周辺を周遊

岡山～広島周辺を周遊するツアーは約1割

※) JTBで取り扱っている中国国内ツアー（H25.8.29時点におけるHP掲載情報）の内、添乗員が同行するツアーのみを対象に集計。
 ※) 設定時期、出発着空港、プラン（料金・グレード等）のみが異なる場合は同一のツアーとみなした。
 ※) ウォーキングを主たる目的としたツアーや、鉄道を主たる移動手段とするツアーは対象外とした（クルーズ船での観光を含むツアーについては、陸上で移動に関する部分のみを対象とした）。
 ※) 線の太さは、ツアーで組まれている周遊コース数の多さを表す。



■主要観光地における観光入込客数



ネットワーク化されていない地域の観光地は、観光入込客数が少ない傾向

〔凡例〕
 所在市町村にネットワーク化されたICが、ある〔 〇 〕 ない〔 〇 〕

資料/各県観光動態調査(H24 ※ただし広島県はH23)、鳥取県HP(H24)、福山市HP(H20)
 注)観光客入込客数は県単位で調査・集計方法が異なる

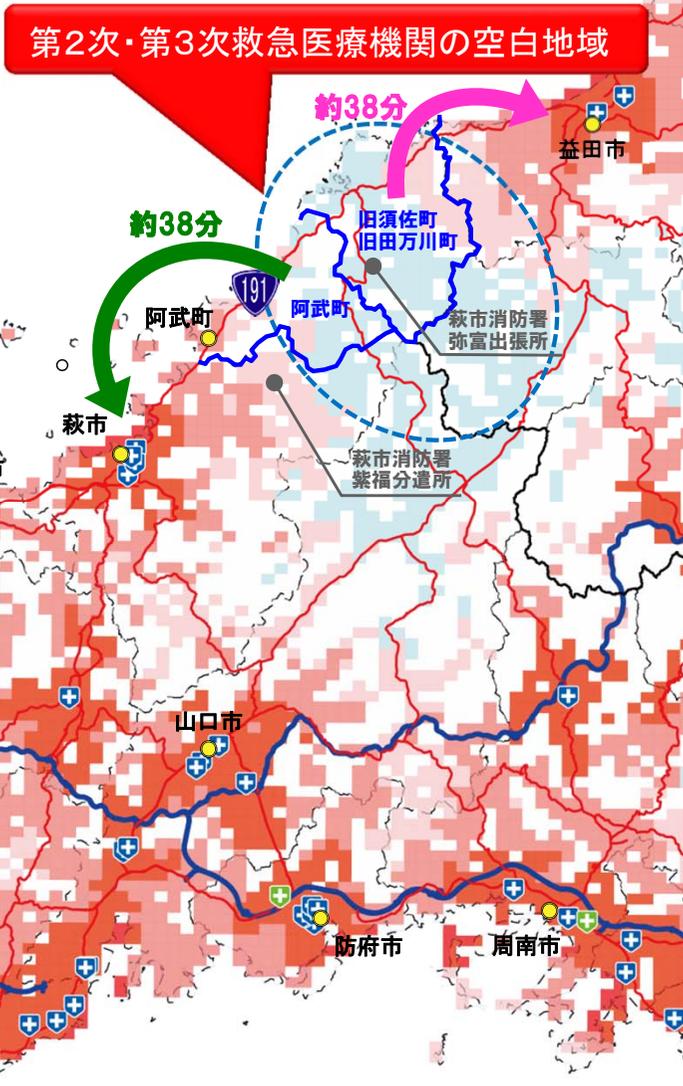
2-4 医療

- 益田市から萩市間(約60km)には第2次救急医療機関もない状況。
- 救急隊の出動から医療機関へ収容するまでの時間は、30分を越える割合が高く、萩市消防本部管内では管外への搬送割合が高い。

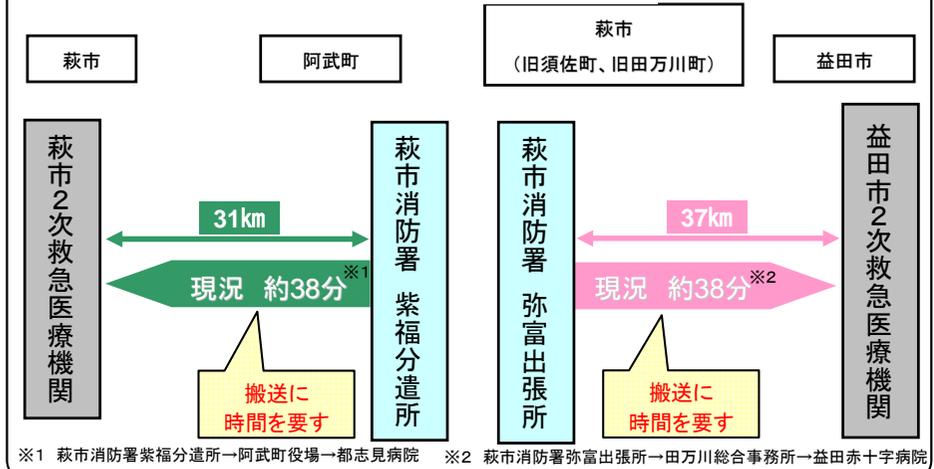
【第2次・第3次救急医療機関の立地状況】

凡 例

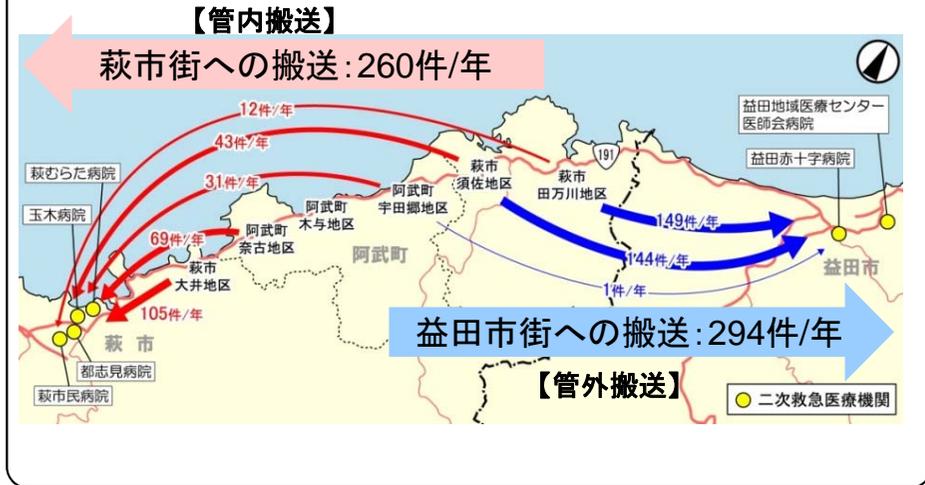
- 第2次医療機関
- 第3次医療機関
- 第2次・第3次医療機関への所要時間
- 0~10分
- 10~20分
- 20~30分
- 30分以上



【第2次救急医療機関への搬送時間】



【国道191号経由の救急搬送実態(H23年度実績)】

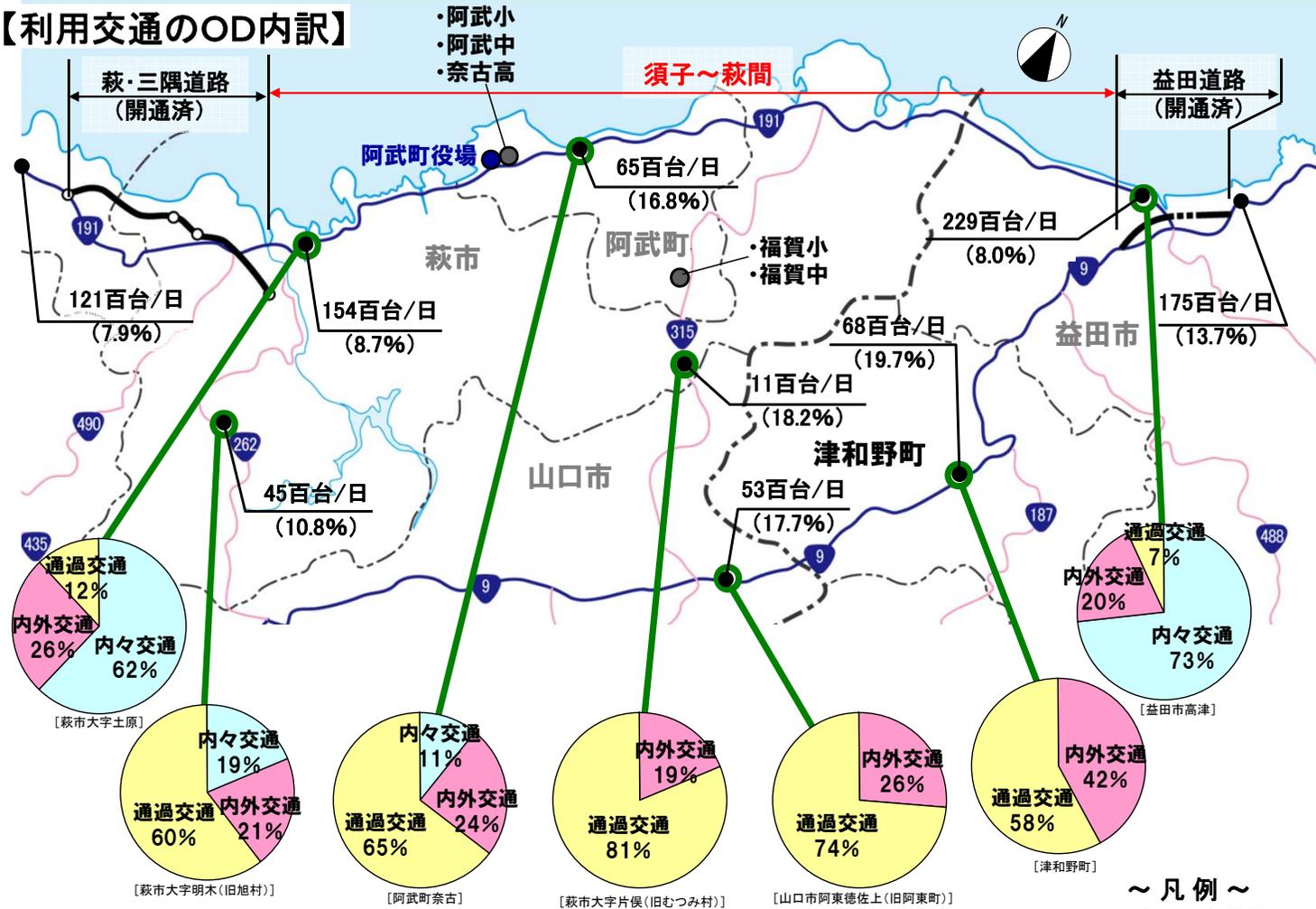


3. 道路・交通の状況と課題

3-1 国道191号の周辺交通特性

- 益田市、萩市街地部では内々交通の占める割合が高く、平日夕・休日において速度低下をおこなっている。
- 益田市地域～萩市地域間(市街地を除く)の主要幹線道路は通過交通の割合が高い。
- 阿武町の国道191号は、沿線に学校、役場が立地し、地域の生活道路として機能しているが、通過交通が全体の約7割を占めるなど地域内の生活交通と通過交通が混在している。

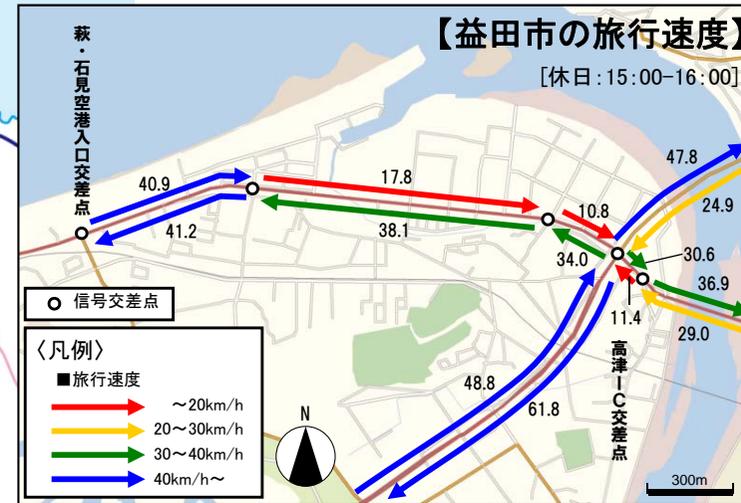
【利用交通のOD内訳】



※役場、学校の表示は阿武町のみ
 ※内々:各地点における自市町村(旧市町村)
 内外:内々⇄その他地域
 通過:その他地域⇄その他地域

資料 (OD内訳) H17センサスペース交通量推計結果
 (交通量)H22道路交通センサス

～凡例～
 上段:日交通量
 下段:(大型車混入率)

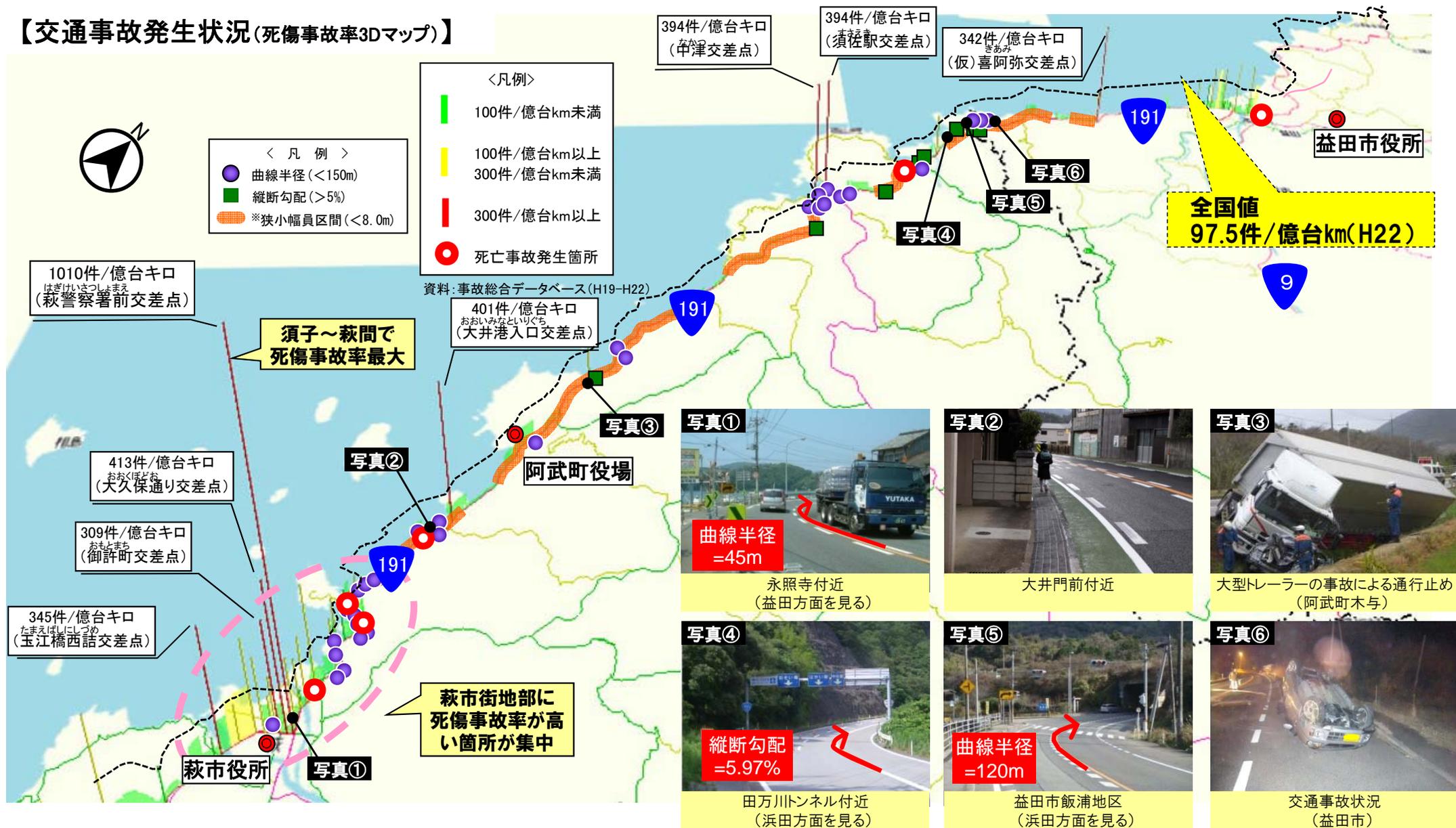


資料 旅行速度:民間プローブデータ (H24.4~H25.3) 10

3-2 道路構造の不良と交通事故

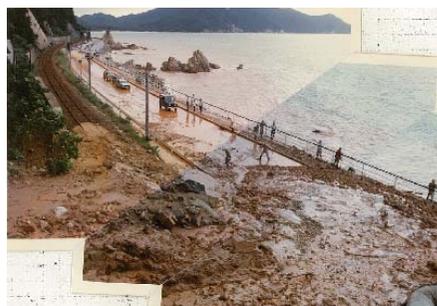
○国道191号須子～萩間は、道路構造の課題が多数あり(急カーブ区間:36箇所、急勾配区間:11箇所、狭隘区間(幅員<8.0m)割合:約46%)、地域間の円滑な交通に支障をきたしており、課題区間では交通事故が多発している。
 ○また、通学路に指定されている区間にも歩道未整備箇所があり、危険な状況にある。

【交通事故発生状況(死傷事故率3Dマップ)】



3-3 脆弱な箇所の状況

○国道9号、191号には、事前通行規制区間や越波区間などの防災上脆弱な箇所が連続している。



▲土砂崩れ発生箇所
(阿武町木与)



▲土砂崩れ発生箇所
(阿武町須佐)



トンネル内冠水(大刈トンネル)



▲堆砂状況
(益田市喜阿弥町)



▲事前通行規制区間
(阿武町木与)



▲災害状況
(萩市須佐)



▼益田～萩間 災害履歴

発生年度	件数	概要	全面通行止め時間
H20	0	-	-
H21	1	事前通行規制	47時間15分(2.0日)
H22	1	土砂流出	152時間30分(6.4日)
H23	3	事前通行規制	187時間15分(7.8日)
H24	1	事前通行規制	8時間45分(0.4日)
H25	2	事前通行規制	34時間50分(1.5日)
H25	1	土砂崩れ	186時間20分(7.8日)
合計	9	-	616時間55分(25.7日)

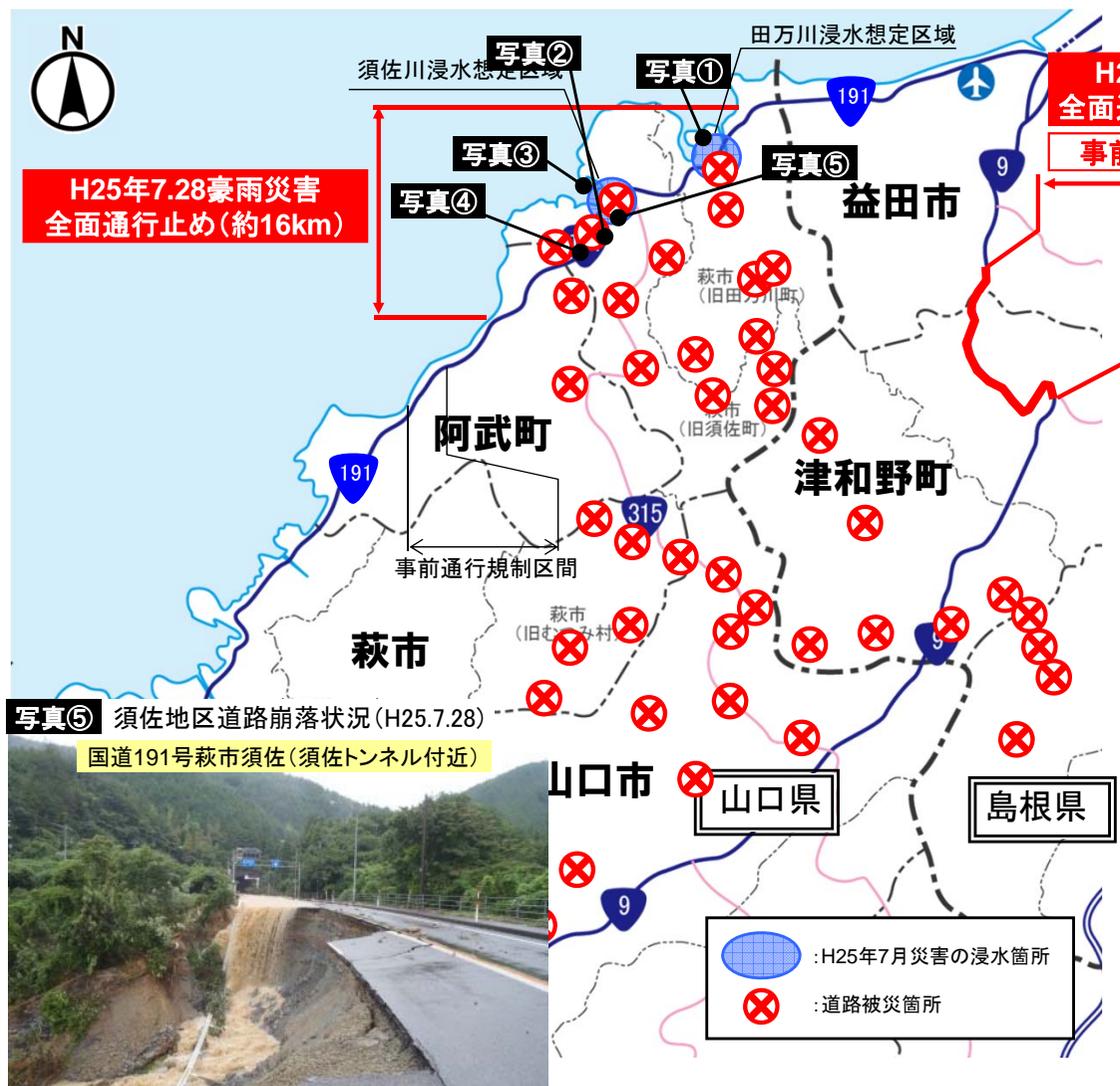
出典: 山口県河川課資料、浜田河川国道事務所資料

▲土砂崩れ発生箇所
(大刈トンネル東坑口)

3-4 道路災害の状況 [平成25年7月災害]

- 平成25年7月28日に島根県、山口県で甚大な被害が出た局地的な豪雨により、島根県津和野町、萩市と旧阿東町にあたる山口市の一部は激甚災害に指定された。
- 国道9号・191号・315号の幹線道路は浸水被害や土砂災害等により全面通行止めとなり、山陰側における東西方向の移動が不可能となった。

【平成25年7月災害による通行止め発生箇所】



3-4 道路災害の状況 [昭和58年7月災害]

○昭和58年7月の災害では、益田以西の国道191号で、全面通行止めが9箇所が発生。国道9号では、全面通行止めが10箇所が発生するなど、集中豪雨に伴う甚大な被害が発生。

【昭和58年7月災害による通行止め発生箇所（益田以西）】

国道191号で、全面通行止めが9箇所、
片側通行止めが3箇所発生！
国道9号で、全面通行止めが10箇所、
片側通行止めが1箇所発生！



資料:「昭和五十八年七月豪雨災害誌」(建設省中国地方事務局)
「昭和五十八年七月豪雨災害の記録」(島根県)

【過去の大規模災害】

発生日	発生原因	主な被災地	被害状況(島根県)	
昭和47年7月	梅雨前線	島根県全域	死者26名 浸水家屋38,294棟	全壊家屋559棟 流出家屋95棟
昭和58年7月	梅雨前線	島根県全域 (特に県西部)	死者行方不明者107名 浸水家屋18,216棟	全壊家屋1,372棟 流出家屋308棟

資料:「高津川の主な災害」(国土交通省水管理・国土保全局)

小浜地区被災状況(S58.7)



益田市内被災状況(S58.7)



須佐地区被災状況(S58.7)



益田市角井地区被災状況(S58.7)



4. 地域及び道路の現状(まとめ)

4. 地域及び道路の現状（まとめ）

- ① 木与地区の事前通行規制区間や大井・須佐地区の越波区間などの防災上脆弱な箇所が連続
- ② 事故や災害による長期間通行止に伴い、大幅な迂回が発生
- ③ 萩市街地部、須佐地区では急カーブ、急勾配、狭幅員など、道路構造に問題がある区間が多数
- ④ 益田市街地、萩市街地部では旅行速度が低下
- ⑤ 萩市（須佐町、田万川町）、阿武町は、救急医療機関の空白地域
- ⑥ 益田市から萩市間は移動時間が長く、観光連携が困難
- ⑦ 高速道路のアクセス性が悪く、工業団地の立地が1箇所のみ

5. 今後の進め方（予定）

5. 今後の進め方（予定）

